

ヒヤリハット 事例集

一般事務職場編・清掃事業場編

平成 21 年 2 月

地方公務員災害補償基金

はじめに

ヒヤリハット報告活動は、「危険予知活動」とともに、災害発生の未然防止あるいは再発防止に大きく寄与しています。

これまで災害を起こさないための「災害ゼロ」を目指した安全活動は、作業水準の高さを誇りとし、災害が発生した場合には徹底した教育を行い、事故の発生を防いできました。

しかし、近年安全活動に対する考え方が見直され、「努力すれば二度と災害は起こらない」ではなく、「災害は努力しても起きるもの」という認識のもと、事故を起こした責任は、作業者個人にあるのではなく事業者そのものに帰すべきという、事業者の社会的責任が言われています。こうした認識の変化に伴い、災害発生の一手手前である「危険」に着目し、「災害ゼロ」から「危険ゼロ」への職場づくりが求められています。

この「危険ゼロ」の職場づくりのためには、危険予知活動の活性化が望まれています。併せて、災害にまで至らなかったが、ヒヤリとしたりハッとしたりといった体験を活かすための「ヒヤリハット報告活動」に対する関心も高まっています。

ヒヤリハット事例は、民間事業場だけでなく公務職場においても発生するものです。しかし、こうしたヒヤリハット事例の教訓を活かさずに放置しておけば、取り返しのつかない重大な災害につながることも考えられます。

ヒヤリハット報告活動は、実際に体験した危険の教訓を活かす活動ですので、みなさんの危険に対する感受性を高めるとともに、安全意識の高揚や公務災害防止活動の活性化に大きな効果を発揮します。

こうした状況を踏まえ、私ども基金では「業種別ヒヤリハット事例集作成研究会」を立ち上げ、一般事務職員及び清掃事業職員を対象に地方公共団体におけるヒヤリハット報告活動の取組状況、実際に発生した事例及びその対処方法などの実態調査を行い、ヒヤリハット事例集として取りまとめました。

地方公共団体における公務災害の未然防止活動として、他団体のヒヤリハット事例を生かすとともに、ヒヤリハット報告活動の実施を予定している団体、あるいは既に実施している団体や職場においては、さらなる活性化に向けた手引き書として参考にいただければ幸いです。

最後に、本事例集の作成にあたり、調査にご協力を賜りました地方公共団体並びに関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成21年2月

地方公務員災害補償基金

理事長 成瀬 宣孝

目 次

1 ヒヤリハットとは？	
(1) ヒヤリハットとは？	1
(2) 調査の趣旨及び目的	2
2 ヒヤリハット事例集	
(1) 一般事務職場編（事例1～20）	3
(2) 清掃事業場編	
① 収集作業における事例（事例1～20）	13
② 工場内作業における事例（事例21～60）	23
3 ヒヤリハット報告活動の活性化に向けて	43
4 報告活動実施団体の事例紹介	45
5 ヒヤリハット報告活動に係る実態調査結果	
(1) 集計結果	
① 一般事務職場：A票	55
② 清掃事業場：B票	67
(2) 報告活動の効果・課題	79
(3) ヒヤリハット報告書様式の紹介	83
(4) 調査票	93
【資料編】	
「危険性又は有害性等の調査等に関する指針」リーフレット	101
（厚生労働省・都道府県労働局・労働基準監督署：平成18年3月）	
「業種別ヒヤリハット事例集作成研究会」	109

1

ヒヤリハットとは？

1 ヒヤリハットとは？

(1) ヒヤリハットとは？

「ヒヤリハット」とは、重大な災害や事故には至らなかったものの、一歩間違えば重大事故につながるようなヒヤリとした事故や、不安全な状態または行動によりハッとした経験を意味します。これは、幸いにも大きなケガをしないで済んだというだけのことであって、重大事故の一歩手前の状況と考えられます。

米国技師ハインリッヒ氏が労働災害の発生確率を分析した「ハインリッヒの法則（1：29：300）」があります。これは、1つの重大な災害の背後には、29の軽微な災害があり、その背景には300の無傷事故（ヒヤリハット事例）があるというものです。

このように、「ヒヤリ」とした体験と不安全な状態や行動による「ハッとした」ことも取り上げて、これらを皆に教え、同じような事が起こらないように、知恵を出し合い、工夫して安全な職場づくりをする活動が「ヒヤリハット報告活動」です。

公務職場における公務災害は特定の危険な部門だけで発生しているわけではなく、毎年多くの部門で多数の公務災害が発生しています。（表1参照）

こうした重大災害につながる前に、ヒヤリハット事例の情報収集（ヒヤリハット報告活動）を行うことで、他の職員に対しての注意喚起につながり、職員の危険感受性が高まるだけでなく、対策を推進することで公務災害の予防及び再発防止につなげ、先取り安全活動が可能となり、災害防止に大きく貢献できます。

大きな事故があった後で、私も同じような要因でヒヤリハットを体験したという話をよく耳にします。なぜ、ヒヤリハット体験をもっと早く情報提供できなかったのでしょうか。もし提供されていたら大きな事故、災害を防げていたかもしれません。ですから、小さなことでもこうした報告活動を行うことが非常に重要とされています。

また、ヒヤリハット報告活動は、報告することによる情報の共有化と併せ、報告により顕在化された“災害の芽”をリスクアセスメント手法などを活用し、計画的かつ重点的に本質安全化対策につなげ、「危険ゼロ」職場に向けたさらなる取り組みへと発展させていくことも可能となります。

表1 平成19年度地方公務員の公務災害認定状況

(単位：件)

区分	義務教育 学校職員	義務教育 学校職員 以外の教 育職員	警察職員	消防職員	電気・ガス ・水道事業 職員	運輸事業 職員	清掃事業 職員	船 員	その他 の職員	合 計
公務上 認 定 件 数 (うち死 亡事案)	4,196 (8)	3,323 (8)	5,970 (7)	1,588 (4)	417 (3)	279 (2)	2,055	16	9,502 (14)	27,346 (46)

※地方公務員災害補償基金「平成19年度常勤地方公務員災害補償統計」から

(2) 調査の趣旨及び目的

地方公共団体においては、公務災害の未然防止、再発防止などさまざまな安全衛生活動に日々取り組まれていることと思います。災害があってから対策を考えるのではなく、職場巡視をはじめとした危険予知活動など先取り安全行動として実践されている団体もある一方で、安全衛生委員会の活性化につながらない、あるいは安全衛生活動が推進されないなどといった課題を抱えた団体も少なくないのではないのでしょうか。

ヒヤリハット報告活動は前述したように、一歩間違えると重大事故につながっていたかもしれない実体験ですので、こうした教訓を活かす活動を行うことにより、危険に対する感受性を高め、災害防止活動に大きな効果を発揮します。

こうしたことから、先取り安全行動の一つでもあるヒヤリハット報告活動の実施状況、事例の活用方法、効果や課題などについて業種ごとに調査を行うとともに、実際に報告のあった事例をまとめ事例集として各団体に配布することで、ヒヤリハット報告活動の未実施団体については、その有効性について理解していただき、職場の安全衛生活動につなげてほしいと思います。また、既に実施している団体にはさらなる安全衛生活動の活性化に向けた取り組みとなるよう他団体の状況も参考にいただければ幸いです。

① 調査対象団体

都道府県、政令指定都市、市、特別区、町村、一部事務組合（50人以上規模）

※ ただし、B票：清掃事業場用については都道府県を除く

② 調査対象業種

一般事務（A票：一般事務職場用）

清掃業務（B票：清掃事業場用）

※ 平成20年度調査では、一般事務及び清掃業務の2業種を対象としています。次年度以降は別業種を対象に調査を実施する予定です。

③ 調査時期

平成20年7月～8月

④ 調査方法

ア アンケート調査

各団体の安全衛生所管局部長あて調査票を郵送配布し、郵送による回収を行いました。

イ 現地調査

調査回答団体のうち、取り組み状況の異なる4団体を選定し、ヒアリング調査を実施しました。

2-(1)

ヒヤリハット事例集
一般事務職場編

2 ヒヤリハット事例集

(1) 一般事務職場編

各団体から寄せられた事例（内容、原因、対策）をご紹介します。なお、アドバイスは、「業種別ヒヤリハット事例集作成研究会」で付記したものですので、参考にしてください。

事例



《団体から寄せられた事例》

内容
事務室内の打合せテーブルとロッカーの間を通ろうとしたところ、通路脇に置いてあったコピー用紙の分別箱に足をひっかけて転倒した。

原因
通路脇に障害物があり、コピー機の陰になって気付きにくかった。

対策
事務室の危険箇所を点検し、通路の整理や障害物の除去を行うとともに、整理整頓を実施した。

《研究会からのアドバイス》

通路の整理整頓等、類似の災害要因対策まで対象範囲を拡大しているのは大変良いことです。

事例



《団体から寄せられた事例》

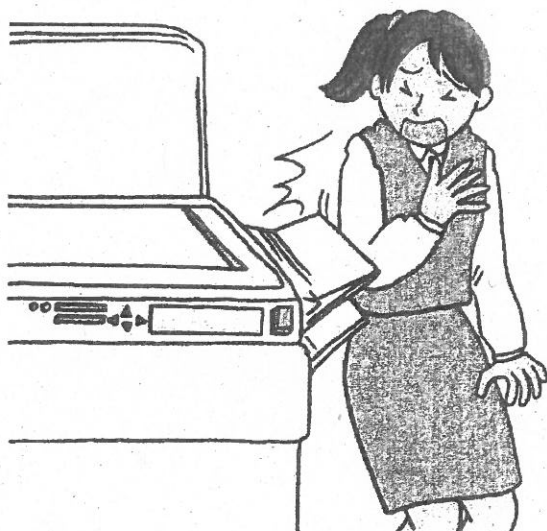
内容
歩行中にLANケーブルに足をとられ転びそうになった。

対策
・ケーブルを床下に潜らせる。
・モールを設置する。
・無線LANにする。

《研究会からのアドバイス》

モールにもさまざまな型があります。職場のレイアウトに応じて、なるべく通路を横断せず、つまづかないよう工夫が必要です。

事例



《団体から寄せられた事例》

内容
コピー機のトレイにぶつかった。

原因
通路にはみ出しているため。

対策
移動した。

《研究会からのアドバイス》

通路は80cmの幅を確保しましょう。
通路を人が通る際に、人間の体が50cm 手に物を持った時が15cmとして両手で30cm。合計80cmは必要となります。特に通路に面した部分は余裕を持たせましょう。

事例



《団体から寄せられた事例》

内容
床から電源コンセントが突出しており、つまずいた。

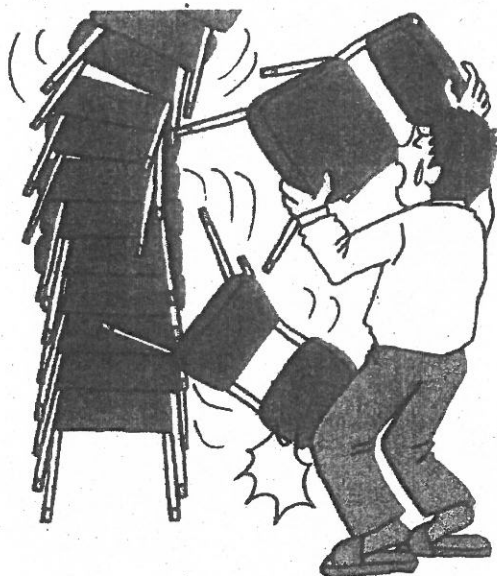
原因
通路にあるため、つまずきやすい。

対策
移設または恒久的なカバーを設置した。

《研究会からのアドバイス》

特に平均年齢が高い職場を優先的にチェックし、埋め込み型への変更や、移設等の恒久対策を検討しましょう。

事例



《団体から寄せられた事例》

内容

会議の準備で、机と椅子を並べている時に、机と椅子が崩れ足もとに落ちた。

原因

単独で作業を行っていた。さらに作業に不適当な履物（サンダル）を履いていた。

対策

作業全体の安全管理を行う人を置くが、もしくは複数で作業にあたる。
また、けがを防げるような作業スタイルとする。

《研究会からのアドバイス》

机と椅子がなぜ落ちたのか？この要因分析を行い、これらの並び替え等の作業における禁止事項や遵守事項を明確にしましょう。

事例



《団体から寄せられた事例》

内容

戸棚の上の箱を取ろうと、キャスター付きの椅子に上った時に、キャスターが動いて椅子から落ちそうになった。

対策

戸棚等の上に荷物を置かない。不安定な物に上がらない。

《研究会からのアドバイス》

作業する高さにあった安定した脚立を利用しましょう。ただし、脚立の天板（最上部）に上がっての作業は、不安定になるため絶対にやめましょう。

事例



《団体から寄せられた事例》

内容

書棚上段にある書類綴りを取ろうとした時に、綴りの上に横に積んであった他の書類綴りが落下した。

対策

書類綴りの上に他の書類綴りを増積しない。増積する場合は視野が届くようにする。

《研究会からのアドバイス》

増積しないことはもちろんですが、書類の整理を定期的に行い、業務効率のためにも背表紙を付け、どこに何が置いてあるかひと目で分かるようにし、崩れ落ちないように縦置きしましょう。

事例



《団体から寄せられた事例》

内容

プリンターに詰まった用紙を取り除くため、可動式の椅子の上に乗り作業していたら、椅子が動きだし落ちそうになった。

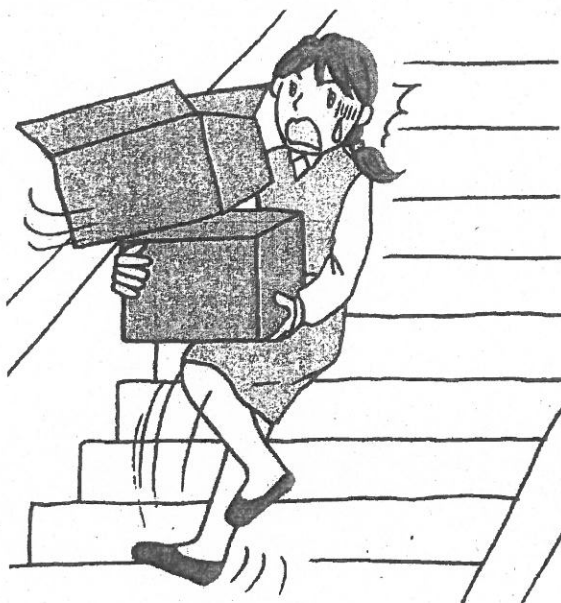
対策

固定椅子を使用する。プリンターを高い位置に置かないこととした。

《研究会からのアドバイス》

プリンターなどのOA機器は通常作業だけでなく、トラブル処置作業も考慮し、最適な置き場所を検討しましょう。

事例



《団体から寄せられた事例》

内容

倉庫から重たい荷物を出し、持ったまま階段を下りたらバランスを崩し階段から落ちそうになった。

対策

重たい荷物を運ぶ際は、複数人で協力して運ぶ。

《研究会からのアドバイス》

重たい荷物を運ぶ場合、足元が見にくく段差につまずく、バランスを崩し転落、人や物との衝突など多くの危険性をさんでいます。また、腰などに負担をかけることにもなります。なるべく台車等を利用し、複数人で作業しましょう。

事例



《団体から寄せられた事例》

内容

天井の蛍光灯を交換する際、脚立が不安定になり、脚立のステップを踏み外し落ちそうになった。

対策

補助者を置いて作業を行う。

《研究会からのアドバイス》

脚立がなぜ不安定になったのか？ステップを踏み外しそうになったのはどういう行動の時か？など要因を掘り下げ、その場所ごとの足場確保を検討しましょう。

事例



《団体から寄せられた事例》

内容

ロッカーの上に備品類があり、地震などの際に落ちそうになる。

原因

収納場所が少ないため。

対策

不用品を処分し、ロッカー内を整理する。

《研究会からのアドバイス》

必要なものと不必要なものを分別し、不必要なものは捨てます。整理・整頓運動を心掛けましょう。

事例



《団体から寄せられた事例》

内容

書類を取りにキャビネットに行った時に、荷物の整理がされていないため、足場がとれずつまずいた。

原因

通路にはみ出しているため。

対策

荷物の整理を行った。

《研究会からのアドバイス》

要・不要を分別し、不要なものを処分します。そして残った必要なものの置き方を工夫し、ルール化しその遵守徹底を図りましょう。また、通路は80cmの幅を確保しましょう。

事例

13



《団体から寄せられた事例》

内容

入退出にあたり、ドアを開けた際に反対側にいる人にぶつかりそうになった。

原因

反対側の様子がわからない。

対策

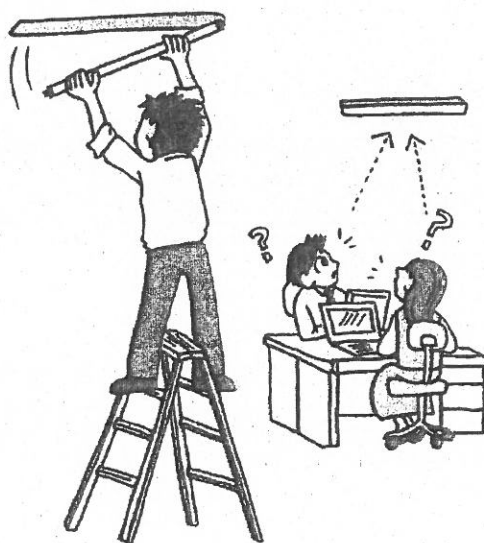
扉に小窓をつけた。

《研究会からのアドバイス》

扉に小窓を付け、反対側の様子が分かる対策を実施されています。良い対策ですが、それが出来ない時は、次善の策として、扉の引き手側に注意書きを目線の高さに取付けましょう。また、引き手側の立ち位置にも注意しましょう。

事例

14



《団体から寄せられた事例》

内容

事務室の蛍光灯が切れたため、交換しようとしたところ、ブレーカーが落ち共通回路の照明がすべて消えた。

原因

照明の電源スイッチを切らずに蛍光灯を交換したため、漏電しブレーカーが落ちた。

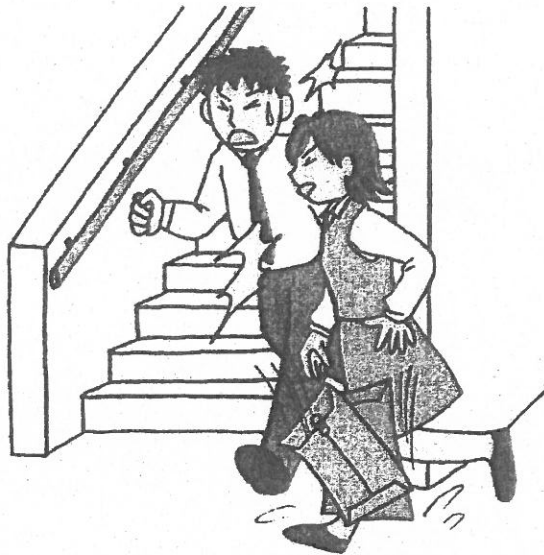
対策

蛍光灯の交換や清掃時には、漏電によりブレーカーが落ちたり、感電する恐れがあることから、必ず電源スイッチを切り、さらに火傷しないよう蛍光灯が冷めてから行うよう徹底した。

《研究会からのアドバイス》

照明の電源系統によっては、電源を切らずに蛍光灯交換をする場合があります。蛍光灯取り換え作業で漏電するのは極めて稀であり、何故漏電したのか？この掘り下げと漏り止め付きの軍手等保護具の着用等も検討しましょう。

事例



《団体から寄せられた事例》

内容

階段を下りた人と廊下の歩行者、廊下側の歩行者とトイレから出てきた人が出会い頭にぶつかりそうになった。

原因

壁等がブラインドになって目視できない。

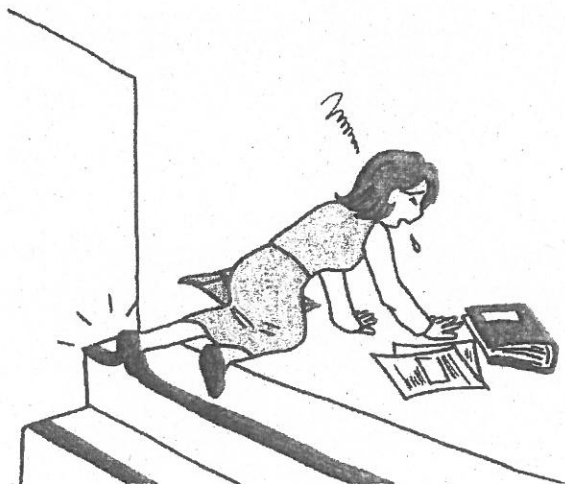
対策

カーブミラーを設置し、廊下にセンターラインまたは停止線を設けた。

《研究会からのアドバイス》

良い対策です。工夫を盛り込みながら見えない部分の“見える化”対策を推進しましょう。

事例



《団体から寄せられた事例》

内容

階段を上っていたところ、靴の先が階段の滑り止めの微妙に飛び出した部分に引っかかりつまずいた。

原因

滑り止めが段からはみ出し、はがれて浮き上がっていたため。

対策

びったりと貼り付け、又は新たなものに交換した。

《研究会からのアドバイス》

特に階段の折り返し部分にある滑り止めは、はがれやすいので注意が必要です。

事例



《団体から寄せられた事例》

内容

雨天になると廊下が滑りやすく転びそうになる。

対策

傘袋の設置及びマットを敷いた。

《研究会からのアドバイス》

濡れている廊下や階段は非常に危険です。濡れないように傘袋の設置やマットの敷設は有効ですが、濡れている場合はこまめな拭き取りも必要でしょう。

事例



《団体から寄せられた事例》

内容

高所作業で防鳥ネットを張替え中に、手が滑り作業工具が下に落下した。

原因

落下防止対策がなされていなかった。

対策

作業工具に紐を結び、安全帯等に縛りつけて、工具が手から離れても落下を防止する対策をとった。

《研究会からのアドバイス》

高所作業で工具や部品などを落下させる事故は過去多く発生しています。高所作業中の表示や立入禁止措置等の対策なども検討しましょう。

【事例】



《団体から寄せられた事例》

内容
草刈り作業中に小石が飛散し、顔に飛んできた。

原因
草の中の状況を確認していなかった。

対策
保護メガネを着用する。

《研究会からのアドバイス》

屋外作業では、本事例以外にも毛虫などによる皮膚炎、蜂刺症、熱中症なども考えられます。作業時の服装などにも十分気を付けて作業を行いましょう。

【事例】



《団体から寄せられた事例》

内容
公用車で出張中に、信号待ちでブレーキを踏んで止まっていたはずが、車がそろそろと動き、前の車にぶつかる寸前だった。

原因
仕事の話に夢中で、いつの間にかブレーキを踏む足の力が抜けていた。

対策
気を抜かず、運転だけに集中する。

《研究会からのアドバイス》

一時停車でのサイドブレーキの習慣化を促進しましょう。